

団体部門

ふくおかしよくいくけんこうとし
福岡食育健康都市づくり地域協議会

ちいききょうぎかい

食の生産地を繋ぐファーマーズマーケット



(3,200名の来客でにぎわうイベント会場)



(子ども達のおつかいチャレンジを幼児教育を学ぶ学生がサポート)

取組概要

- 大学を事務局に、経済団体や各種企業、県・市が連携した産官学による協議会を設立し取組を実施。
- 中村学園大学を会場に同イベントを開催。高校生ボランティアによる商品PRや販売サポートを行い、出店者や来場者との交流の機会を創出。
- 学生運営のワークショップでは、小さな子どもが一人でお使い体験に挑戦するなど教育的エンタテインメントの要素を取り入れ、食育活動を展開。

活動成果

- R5年度は約3,200名が来場。県産品活用を中心とした都市部と過疎地の人的・物的交流に取組み、産品魅力や農業理解の輪を形成。
- 物販の際には生産方法や調理法、栄養学の情報等を提供したり、学生たちが業態研究を行いそれを発表することで食育にも寄与。
- 運営側に高校生・大学生を加えることで主体的に「食」についての学びの機会を創出している。

かぶしきがいしゃ
そのもの株式会社

地域貢献する進化系納豆で海外需要をつかめ



（江北町及び地元農家と連携協定を締結し、町民の健康増進を後押し）



（海外市場で国産品の価値を高める商品として、クールジャパン・プラットフォームアワード優秀賞を受賞）

取組概要

- 町や地元生産者と連携し、地域特産の大豆を使用した納豆加工品を開発。一部に苦手な方もある納豆の発酵臭やネバつきを解消し、手軽さ、健康効果を進化させた「そのもの納豆菌」シリーズを商品化。
- 自社製品の健康効果を科学的に証明する研究に取り組み、栄養素や機能性食品が専門分野である国際学術誌「Nutrients」に査読付き論文が掲載された。

活動成果

- 新聞のほかNHKの国内・海外放送でも紹介。内閣府のアワード優秀賞や、民間のウェルネスフードアワードでも金賞を受賞
- 米国Amazon JAPAN STOREランキングのビューティ部門1、位2位を独占するなど海外でも評価。
- 江北町民の腸内細菌叢において、ビフィズス菌が日本人平均の2倍という研究成果が判明。食習慣などとの研究を進め、地域活性化とともに、全国に有用なPJに育てていきたい。

ベースじぎょうきょうどうくみあい
やまがBASE事業協同組合

移住者と地域が伴に創る新しい地方の形



(屋内養蚕やワイナリー、温泉での業務、農業など時期に応じて様々な業務に従事し、域内事業者の人材不足解消に寄与)



(組合員のやまがBASE(株)が運営するYAMAGA BASEは組合の本店として利用し、組合から派遣するマルチワーカーが中心となり運営)

取組概要

- 地域の事業者で協議し、人材不足の解消と地方における若者の雇用の受け皿として2022年に特定地域づくり事業協同組合を設立。
- 事業者における季節性による繁閑の差を解消する他、若者の新しい視点や知見、ネットワークを各組合員事業所に持ち込むことで業務改善も図られる。

活動成果

- 2023年6月以降、約1年半で多様なバックグラウンドを持つUターン移住の20代、30代の若者5名をマルチワーカーとして雇用。
- 人材の派遣ニーズは強く、2025年1月現在の組合員は12事業者に増加。
- 組合員のやまがBASE(株)が運営する複合施設YAMAGA BASEは、マルチワーカーが中心となり運営しており、イノベーションコミュニティや地域に根差したイベントの企画など幅広く実施。

はやしだ まさあき
林田 真明

その漢の名は「ちゃんぽん番長」



(ちゃんぽん番長 林田氏)



(小浜ちゃんぽんマップと、地元イベントでのちゃんぽん大行列)

取組概要

- 雲仙普賢岳噴火による地域経済の停滞を打破するため地域日常食を「小浜ちゃんぽん」と銘打ち、自らも「ちゃんぽん番長」のキャラクターになりきり地域活性化の旗振に取り組む。
- 野菜・肉・魚介が揃う雲仙市において「ちゃんぽん」はその名のとおり地域農畜水産業や飲食店、観光業及び食文化とつながり、地元及び観光客からも安価で親しみやすい地域料理として好評・再評価。

活動成果

- 取組の一環として、B級グルメ全国大会への参加を続けた結果、ちゃんぽん番長は民放の有名芸能人冠番組にも多数ゲスト出演。また、ちゃんぽん番長の活躍をモチーフにドラマ化され、取り組みは全国的に紹介された。
- 当初自費で制作したちゃんぽんマップは企業協賛も得て10刷30万部を超える配布。地域の飲食・観光・宿泊のファンやリピーター獲得に寄与。